

2020.8.13

◎昭和初期の「コサージュ ピン」

青木千里

昭和初期に作られた「コサージュ ピン」についてお知らせします。

15年ほど前に骨董市で入手。植田商店（現在のウエダジュエラー）の刻印が打たれた銀製のブローチです。

オリジナルボックス入り。

両端の真珠と彫りの施された蒲鉾形のパーツがパカッと開き、中に鋭い針が出ております。

この針の目的がわからず10年ほど悶々としておりました。

帯留めと兼用なのか？それにしてはブローチ金具が邪魔。

洋服やリボン、スカーフを通して全体を飾りとして使うのか？それでは布へのダメージが大きすぎる。

御木本の図録「真珠」54号（昭和9年10月）に同型の装身具が Corsage pin と紹介されているのを見つけたのです（昭和10年10月「真珠」55号にもあり）。

昭和40年頃生花の花部分だけを切り離し針金の茎について小さなブーケのようにまとめるコサージュが流行したのを覚えています。

当時のコサージュ ピンには生花を使ったのか造花だったのかはわかりません。

大きな針はまとめた茎の部分を刺して固定するものだったようです。

丁度研究会で植田社長とご一緒になりましたので、お店で見て頂きました。

長年お勤めの「番頭さん」も当時の植田のケースの特徴が出ていて、懐かしいとおっしゃいました。

御木本でも豪華版を造り、植田さんでも取り扱いがあったのですから、それなりには流行ったのでしょう。コサージュ ピンに関する記述は私は他に見聞してありません。目新しい話題としていかがでしょうか？

※「コサージュ ピン」については私も初めて知りました。（露木宏）

コサージュ ピン 01

<http://www.j-bunka.jp/infomation/20200813-01.jpg>

コサージュ ピン 02

<http://www.j-bunka.jp/infomation/20200813-02.jpg>

コサージュ ピン 03

<http://www.j-bunka.jp/infomation/20200813-03.jpg>

刻印

<http://www.j-bunka.jp/infomation/20200813-04.jpg>

真珠 54 号

<http://www.j-bunka.jp/infomation/20200813-05.jpg>

真珠 55 号

<http://www.j-bunka.jp/infomation/20200813-06.jpg>